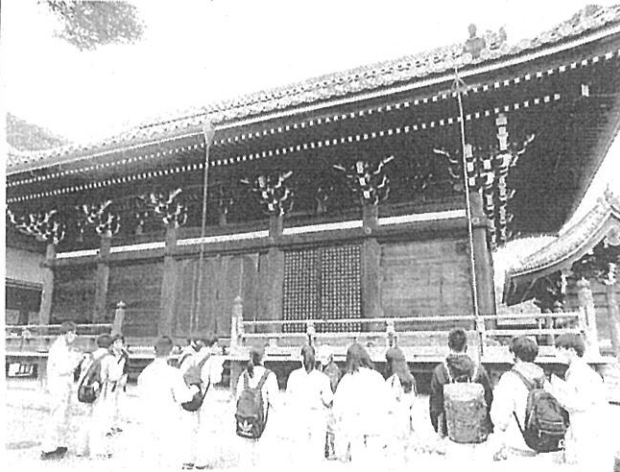


現場見学会の様子(清水寺)



国宝清水寺保存修理工事現場で

宮津高建築科生徒が見学会

京都府建設業協会

山田労務経営副委員長



一般社団法人京都府建設業協会(小崎学会長)は13日、京都府立宮津高等学校建築科の生徒を対象にした現場見学会を開催。京都市

東山区の「国宝清水寺保存修理工事」の工事が終わって間もない現場を見学した。現場見学会には京都府立宮津高校生徒約30人、同校引率教諭、京都府建設業協会が参加した。

建設業に興味を持つ高校生の皆さんを対象に、現場見学会を実施し、建設業のダイナミクスを感じていただき、入職へつなげていく活動をしています。「見て感じて、質問して、多くの物事を知ってください」などと語り、生徒を激励した。その後、現場見学を実施。宮津高校生徒は屋根のスケールの大きさなどを体感した。めったに見られない現場を見て回り、メモを取るなど熱心に学んだ。奥の院において、生徒代表が謝辞を述べた。

# 清水寺本堂など保存修理 宮津天橋高生徒が見学 将来の担い手に魅力伝える

府建設業協会

(一社) 京都府建設業

協会(小崎学会長)は13日、高校生に建設業の魅力伝えようと、



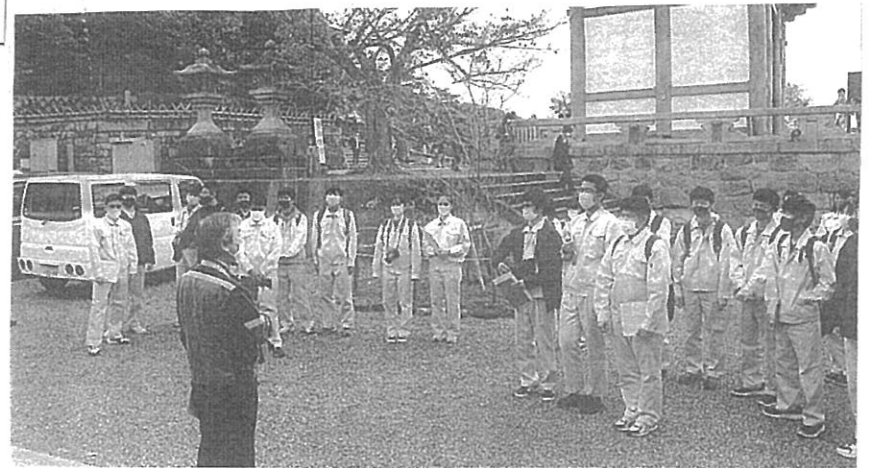
宮津天橋高校の小嶋さん



府文化財保護課の島田課長補佐



府建協の山田副委員長



仁王門北側で行われた開会式

見学会では、清水寺から保存修理事業を受託している府教育庁文化財保護課の島田豊課長補佐が事業概要などを紹介。その後、生徒が2班に分かれて国宝の本堂、重文の馬駐、鐘楼、西門、三重塔、経堂、田村堂、本坊北総門、朝倉堂、釈迦堂、奥院などを見て回り、島田課長補佐から「構造や使用する材料、工法などによって建物の格別の違いがわかる」「保存修理は現在の技術を使いながら、建物を長持ちするようにしている」などの説明を受けた。



保存修理事業がほぼ完了した清水寺(東山区)本堂などの国宝・重要文化財建造物の見学会を開催した。見学会は、建設業の担い手確保の一環として府建協が毎年開いているもので、府立宮津天橋高校建築科1年生30人(引率・中川美里教諭)が参加した。



本堂(上)や仁王門(下)を見学する参加者

午後1時半、仁王門北側で開会式があり、府建協の山田孝司事務経営副委員長が「本堂をはじめ多くの文化財をじっくり見て、有意義な見学会にしたい。わからないことなどがあれば、何でも質問してほしい」と挨拶した。

「構造や使用する材料、工法などによって建物の格別の違いがわかる」「保存修理は現在の技術を使いながら、建物を長持ちするようにしている」などの説明を受けた。

質疑応答の後、生徒を代表して小崎湧斗さんが「普段見ることができない場所を見せてもらい、ありがとうございます。ありがとうございました。知らないことをたくさん教えていただき、とても勉強になりました」と感謝の言葉を述べた。島田課長補佐は「興味がある人はぜひ、こういう世界に足を踏み入れてもらえれば」と話していた。

保存修理事業は、本堂(屋根葺替・部分修理、舞台下斜面の構造補強)、馬駐(解体修理、地盤沈下対策)、轟門(解体修理、構造補強)、本坊北総門(解体修理)、子安塔(解体修理、構造補強)、朝倉堂(半解体修理、構造補強)、阿弥陀堂(半解体修理、地盤沈下対策)、奥院(半解体修理)、釈迦堂(屋根葺替・塗装修理、構造補強)の9棟が対象。2008年度から事業着手し、これまでに本堂を除く8棟が完成。19年度に本堂も屋根葺替・部分修理を終えている。現在、本堂舞台下の斜面の崩落防止対策として構造補強を進めており、21年3月の事業完了を予定している。総事業費は約40億円。本堂の保存修理は1967年以来、約半世紀ぶりとなった。